

## 石部正志先生の御退官に当たって

本学部教授、石部正志先生は今年度末をもって御退官されることになりました。ここに改めて先生のこれまでの研究・教育における御業績、御足跡を顧み、先生のなおいっそうの御健勝と御活躍を祈念する言葉にかえたいと思います。

石部正志先生は、1931年（昭和六年）大阪市に生まれ、戦時には千葉縣市川市で旧制中学在学中学徒動員で伝染病予防血清用の馬の飼育中、機銃掃射を受け九死に一生を得ると言う、近年教育界では数少なくなった戦前の教育と戦争の体験をもつ昭和ひと桁世代に属していらっしゃる。先生の学問の出発点は、敗戦後市川市周辺で貝塚探索に没頭するところから始まったと仄聞しておりますが、爾来先生は一貫して古代遺跡の発掘調査・研究など考古学、古代歴史学研究一筋の道を歩んで来られました。

国学院大学予科（旧制）在学中、市川市姥山貝塚の発掘調査に参加されたのをはじめ、同志社大学大学院（文化史学専攻）在学中には大阪府会史編纂嘱託として勤務のかたわら、福井県若狭地方の考古学調査などで活躍。その後は大阪府立泉大津高校教諭、奈良県橿原考古学研究所研究調査員、同研究員、指導研究員などを歴任され、わが国の歴史にとって重要な意味をもつ考古学調査の殆どに従事されて来られました。1988年には宇都宮大学教養学部へ赴任され、1990年同教授。1994年10月国際学部設置に際しては初代国際文化学科長に就任されるとともに、各学部並びに大学院（教育学研究科）で、学生の教育・研究指導、学生生活指導など多面にわたり御尽力下さいました。

その御業績は『若狭大飯―福井県大飯町考古学調査報告』（1966年）をはじめ、『上神主狐塚古墳』（1995年）に至るまでの多数の御著書、並びに80を超える学術論文その他数々の御論考、また文化財保存全国協議会常任委員はじめ、関西各地や栃木県文化財専門審議員等々の文化財保護、地方史編纂関係のお仕事など、まさに近年注目を浴びている考古学の発展に光輝を添えるものとなっています。先生の教育への情熱、学問的営みを通じて、私どもは先生の古代文化、わが国の伝統文化に対する深い御洞察と御愛着、妥協を許さぬ学問的批判精神に接し、民族の良き伝統と文化に根ざした真の国際人としてのあり方に関してお教えを頂くことが出来たことを心から感謝したいと思います。

平成9年3月1日

国際学部長 西村 文夫